



令和元年度 第三十二回全十勝小・中学校 学級・学校・学習新聞コンクール DVD 発刊あいさつ

十勝毎日新聞社

代表取締役社長 林 浩 史

「令和元年度 第32回全十勝小・中学校 学級・学校・学習新聞コンクール」作品集のDVD発刊に当たり、主催者としてごあいさつ申し上げます。

このコンクールは、新聞作りを通して、児童・生徒の皆さんに社会の動きや新聞に関心を持つていただき、複雑さを増す情報化社会に的確に対応できる力を育んでもらうことを目的に、弊社の「NIE (Newspaper in Education＝教育に新聞を)」の取り組みの一環として、毎年実施しております。

毎回、十勝の多くの学校から参加いただいており、今年度は前年度より5校多い19校から、39点増の785点が寄せられました。学級新聞では消費税増税や少子化、防災、新元号などが題材にされ、社会の動きを読み取ろうとする姿勢が強く感じられました。学習新聞では職場体験や修学旅行などの様子が分かりやすくまとめられていたと思います。

新聞を教材として活用するNIEは1930年代にアメリカで始まりました。その教育効果は、「民主主義を支え、より良い市民をつくる」と評され、今や世界80カ国以上で実施されています。日本では1980年代から提唱され、教育と新聞の両業界がタッグを組んで社会性豊かな青少年の育成や活字文化の発展を図ってきました。十勝では1990年に新聞教育研究会が設立され、道内で最も早く

から取り組みが始まりました。年々新聞作りにかける時間が限られる中、活発な活動が続いており、全国大会も数多く開催しています。他地域からの評価も高く、関係者の方々のご協力、ご努力に心からの敬意と感謝を表します。

さて、新学習指導要領では、子供たちの情報活用能力を育成するため、小中学校において新聞の活用を図ることが明記されました。各国でも新聞に触れる機会が多いほど子供たちの読解力が高まる傾向が見られるようです。社会の課題を提示する新聞を日ごろから読むことや、自ら新聞を作ることは、思考力、判断力、表現力を育むだけにとどまらず、グローバル化、デジタル化など激変する時代を生き抜く力が身につくものと期待されています。

十勝毎日新聞社はこれからも、学級・学校・学習新聞コンクールなどを通じてNIEの活動を支援して参りますほか、質の高い紙面づくりに一層力を入れ、未来を担う子供たちに資する情報を提供していく所存です。

最後になりますが、作品の審査、講評を担当された北海道十勝新聞教育研究会をはじめ、十勝中学校文化連盟、帯広小中学校文化連盟などの主催者の皆さま、多大なご協力を賜りました関係各位の皆さまに心から感謝申し上げますとともに、各位の今後一層のご活躍を祈念申し上げ、発刊のごあいさつとさせていただきます。